



協會誌第三年を迎えて

會 長 岡 部 楠 男

わが國の經濟界は今夏以來著しく明るくなり、特に非鐵金屬鑛業は時代の脚光を浴びた形で今までになく活況を呈し、世界的需要増加に伴う國際價格の高騰、輸出の伸長、國內需要の増加等一連の好影響が廣く業界全般をうるおしている。朝鮮の動亂がかかる事態への最も直接的な契機となつてゐることは疑うべくもなく、又更にその背後に國際關係の緊迫による客觀情勢の變化が大きく渦巻いており、これが最大の要因をなしていることはいうまでもないが、他方において、業界の側にこのような變化に對處して實力を發揮しうるだけの準備が相當整つていたこと、とりわけ終戦以來斯業に携る者がこぞつて復興に普々ならぬ努力を重ねて來た事實が與つて力があることも忘れることができない。

非鐵金屬鑛業は鐵鑛、石炭、肥料等の重點産業と異つて終戦後のあの最も苦しい時期にも政府の特別の庇護を受けることなく、お互いの自力のみを恃みとして精魂を盡して難局の打開に努めなければならなかつた。本誌が創刊された昭和二十三年當時は金屬鑛山の復興は全般的に見て未だ漸くその緒についたばかりであつた。その後資金、資材、動力、勞務等すべての面の制約と闘いつつ建直しに努めた苦難はお互いが體驗したところである。殊にドツヂ方式の強行と、これに基く補給金の撤廢はわれわれを生死の關頭に立たしめ、根本的な對策の樹立とその強力なる推進を迫り前途はすこぶる憂慮された。しかし幸いにして當事者の必死の努力によつてこれらの難局は切抜けることができた上、却つてわれわれの立つ地盤はこれによつて一層踏み固められたのであつて、今日新情勢の展開に臨んで、これを享受し得る實力の基礎も今日までの苦難の中に培われて來たといふことができよう。こゝにたまたま協會誌發足第三年を迎え、過去を顧みて感なきを得ないのである。

しかし鑛産物が國際商品であることを思い、國際水準において自らの業態を省るときわれわれは今日の生産水準に甘んずることができないのは勿論であつて、むしろ、今日の事態を立直りの絶好の機會とし、この機を逸することなく速かに企業合理化、設備の近代化、勞働能率の向上等の如き重要な諸問題と正面から取組んで自立態勢への本格的解決に邁進すべきである。

協會が業界と共に荊の道を歩んで來た過去二カ年半の業績は大方の批判に俟たなければならぬであらうが、常に地味に着實に、しかし誠實の限りをつくして業務に専念して來たことは相當に評價されてよいと思う。われわれは眞の復興と建設はこれからという今日の轉機に際會して協會のまじめな歩みと本誌の健全な發展とが大方の支援を得て益々力強く進められるよう祈念してやまない。

日本鑛業協會誌 (第三卷第十號)

十月號目次

(卷頭言) 協會誌第三年を迎えて

岡 部 楠 男……三

☆長孔式採掘法の特徴……河 合 健 兒……四

☆最近における金屬

鑛山界の勞働事情……北 里 忠 雄……二〇

☆地質學者と地質技師……矢 島 澄 策……二七

(隨想) 聲なき聲を聞け……速 水 貫 之 助……二九

☆銅鑛業合理化の具體方策

(合理化審議會部會答申案)……三〇

☆(解説) 電力制當制度の改正について

下 平 文 男……三六

▽協會たより……三六

▽「鑛山の科學管理」……三六

ニ ュ ー ス……四〇

資 料……四〇